

岩手郡医報

平成10年10月 No61
編集 発行
岩手郡医師会
題字 零石町高橋孝先生



第50回県医師会親睦野球大会開会式

* 50 回
岩手県医師会親睦野球大会
昭和24年
1975年
岩手県医師会
一関市医師会
第一回

50回目となった県医師会親睦野球大会は、第1回大会は稗貫郡医師会の担当で昭和24年に花巻市で開催されている。今回の開催地一関市は過去4回目となり、新しくできた運動公園内の野球場ほか8ヶ所で、過去最多の23チームの出場によって行われた。

開会式の簡略化などに取り組み、参加賞の記念品に一関市医師会のシンボルマークの入った、地元サハラパーク製の「ガラスの皿」をとり入れたり、医師会としての苦労が感じられた。

一関市医師会のシンボルマークは、葛の葉をデザインしたもので、これは一関の生んだ蘭医学者建部清庵の著書より葛の葉を選び、この三枚の葉は「医の倫理」「医学の進歩」「医療福祉の向上」を意味するという。
(M. S 記)

目 次

第50回県医師会親睦野球大会開会式	1
第50回県医師会親睦野球大会開会式	2
第50回岩手県医師会親睦野球大会に参加して	
玉山村八角病院 三善 悟	3
岩手郡医師会ゴルフ同好会の集いに参加して	
玉山村 成島勝之助	5
第32回県医師会親睦ゴルフ大会	6
岩手郡医師会主催救急医療懇談会	7
第29回全国学校保健・学校医大会に参加して	
岩手郡医師会理事 上原充郎	9
平成10年度学校保健連絡会議	
岩手郡医師会理事 上原充郎	9

お知らせ

第101回岩手医学会秋季総会	
日本医師会・岩手県医師会生涯教育講座	
厚生省健康政策救急医療講習会	10
会員の入会・退会・異動	10
隨想	
名も無い地震 零石町 高橋 孝	11
岩手郡医師会役員会	12
訂正とお詫び	12
編集後記	12



23チーム参加による開会式

<開会式>

夏の全国高校野球大会(甲子園球場)が終ったあとの8月23日(日)、岩手県医師会親睦野球大会は、第50回目を迎える県南の一関市において開催された。

昨年より2チーム増えて23チームによるトーナメントとなり、試合会場も市内8ヶ所の小中学校、高校のグラウンドを使用して行われ、これに先立って行われた開会式は、一関市の運動公園内野球場(両翼97.5m、中堅122m)において午前8時より「各チーム紹介」アナウンスを聞きながら入場行進が行われた。この中で大会会長(岩手県医師会長)の石川育成先生は、



開会式における石川育成県医師会長のあいさつ

『本日は日頃の精進の結果好天に恵まれ、当地一関市及び一関市医師会の御協力により盛大に行われることは大変うれしく思います。県内各地より集まってきた選手諸君も今回は、23チームとなり、地元一関市医師会も準備に大変であったと思われます。改めて感謝申し上げます。またこの大会は1年に1回のみなさんが楽しみにしている大会でもあり、毎年のようにケガ人も出ており、先日の甲子園で行われた高校野球のマネなど絶対し

第50回 県医師会 親睦野球大会

日時：平成10年8月23日

場所：一関市運動公園
野球場

ないように十分気をつけて下さい。

「けが」については、われわれの加入している損害保険は微々たるもので、できるだけ多くの方が利用することのないようお互に注意して下さい。

また、50回の節目の記念大会でもあり、多くの方々よりいろいろな提言が寄せられています。その中でも高齢化が進んだため年齢制限などの意見が多く、また強いチームと弱いチームを分けて二部制にする方法。これによつて懇親会も全員参加が可能となるのではないか、などいろいろですがこれから検討事項としたいと考えています。

今回よりいろいろな問題のある「開会式の簡素化」については、今回担当の一関市医師会において一部実行された。』

などと話され、地元一関市医師会長木村力夫先生のあいさつでも近くの巣美渓、サハラパークなど観光地のPRも忘れなくあいさつに入れ、都合のつく方々はお立ち寄り下さいとのこと、また一関市長佐々木一朗氏も歓迎のあいさつと共に、最近できた市立博物館など市内の名所のPRを盛んに訴えていた。

選手宣誓では、地元医師会小野寺哲郎先生も「今日一日ケガしないように、明日の診療に支障のないように頑張ります。」と力強く宣誓した。永年選手表彰では、岩手郡より25回出場した高橋牧之介、西島康之の両先生が対象となり、それぞれ10回、20回、25回、30回、35回、40回、45回出場選手の呼名をアナウンスしたあと、以上代表(45回出場の狩野隆一先生(花巻市))に表彰状と記念メダルが会

長より手渡され、以前からの各回出場者を前に整列して渡す方法から時間の短縮がはかられた。

次期開催地（宮古市）の宮古医師会長及川新先生は、宮古市では平成11年8月22日(日)メイン会場を今のところ閉伊川の河川敷球場を予定しており、ここは海拔0メートル地帯でもあり、台風の影響などで使用できなくなる場合もあり、宮古医師会会員一同好天になることを祈っており、皆様多数の参加をお待ちしています。とユニークなあいさつを行った。

例年行われる大会審判長注意としては、一関市野球協会理事長岩渕昭一氏が、ここでも

「ケガのないように」と一言言ったあと、もしケガ人が出た場合はお互いに医師同志ですので皆さんで救急処置をして下さいとあいさつされ、会場より笑いがおきた。

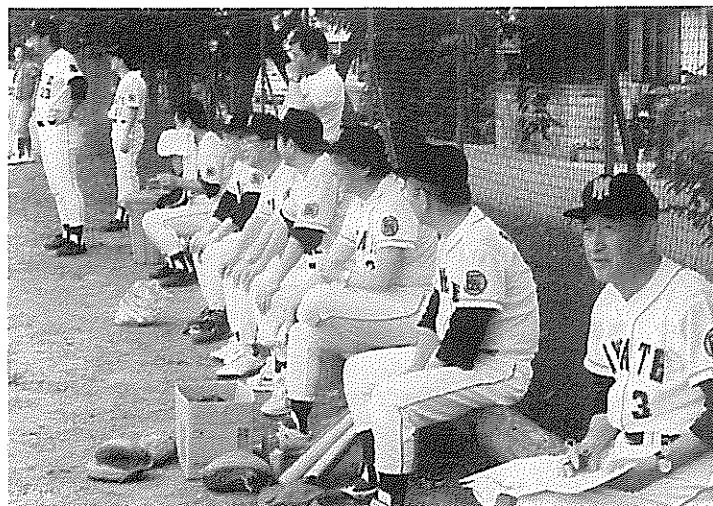
いずれ開会式中には突然のハプニングが今回もみられ、国旗掲揚ではスコアボードの上に仲々旗が出て来なかったり、入場行進のプラカードを持ってくれた地元高看学生の一人が長時間の緊張により、突然倒れる騒動があつたり、式典順序のアナウンスを間違えたりといろいろあった。開会式終了後各チームは一回戦の会場地へと向かった。

(M. S記)

第50回岩手県医師会親睦野球大会に参加して

玉山村八角病院

三 善 悟



岩手郡チームベンチ 右端は三善悟先生

今年の大会は昨年の東磐井郡担当に続き県南一関市で開催された。吾が岩手郡チームも、及川忠人先生のいつも乍らの御厚意に甘え、バスを出していただき、高橋会長、西島、及川、吉田、千田、三善（敬称略）と一関市へ向かった。丁度高校野球の決勝で横浜高校の松坂大輔投手のノーヒットノーランのゲームが終ったばかりでその話でもちきりであった。宿は昨年（千厩町での大会）と同じ一関市ホテル「藏」である。佐々木（久）先生は遅くに到着。

上原先生も合流。

翌日主会場に行くと、嶋、高橋（克）、久保谷、速藤、土谷、成島、小野、篠村の各先生が当日組として到着、合流した。

開会式のセレモニーもかなり簡略化され、表彰選手に岩手郡から高橋牧之介会長、西島康之先生が25回出場で表彰された。次期開催地として及川新宮古医師会長が挨拶された。

セレモニーも終り、各球場へ分散し試合開始。吾々は一関小学校グラウンド。マウンド



試合前のミーティング

もなく、ベンチも丸太一本横たえただけ、尻が痛い。一回戦相手は花巻Bチーム。一回裏相手のミートバッティングにペースが狂い、速攻に打つ手なく11-3で敗れた。一試合間に挟み敗者復活戦も同じグラウンドである。相手は江刺市医師会。平成8年にも対戦している。先制されたが三回一挙7点をあげ逆転勝利を収めた。



試合後の懇親会場にて

試合が終り旅館「いつくし園」へ、懇親会場は23チームの中、善戦敗退したチームが入浴後、当番医師会の心尽くしの御馳走にあずかっている。同級生と会ったり、かつてのチームメートに会ったり、いつもながら楽しい語らい、そして来年への別離の会である。

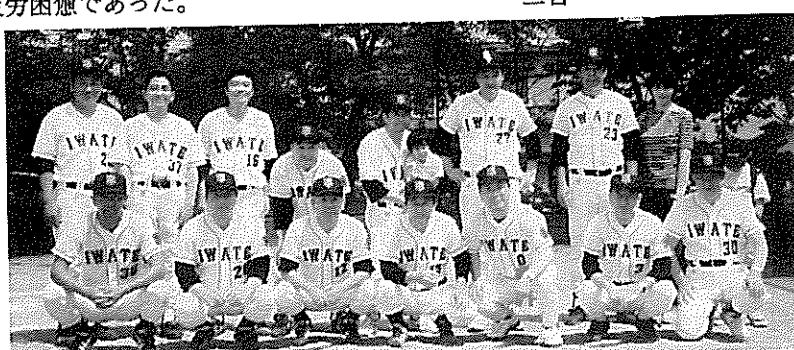
出場した選手も、ベンチに居た皆も陽(ひ)に通され疲労困憊であった。

回を重ねるといつも話に出るのが年齢差である。県立病院や大学の若い医師と60才すぎた開業医ではもう野球でない残酷物語も産まれてくる。この会を永く続けるには又色々な案も出て来よう。相手の花巻の先生（内科医師）が転倒し右鎖骨骨折という事態になり、内視鏡が出来ないとボヤいて居られた。ケガしそうな酷い転び方でなかったのに、運動不足で急に動くから注意していてもケガ皆無も難しい。医師会長も審判長も吾々もケガのない様にと試合前に話されるが、本当に注意したい。例えばゴルフにはハンディキャップがあるから良いが、野球は全く同じ条件下。若い力は残念乍らもう戻ってこない。段々観戦記もボヤキになってきた。出場された先生方本当に御苦労様でした。外の雨を見ながら書いているが、若し1週間遅れたらそれこそとんでもない豪雨の中、県下から集まり大変なことになったと思う。8月23日で良かった。

来年は宮古。美味しい海の幸を食べに参加しましょう。当日のメンバー紹介致します。

	対花巻(B)戦	対江刺市戦
1	小野(遊)	小野(投)
2	千田(一)	千田(二)
3	成島(中)	成島(中)
4	土谷(投)	土谷(三)
5	久保谷(捕)	久保谷(一)
6	吉田(二)	吉田(遊)
7	高橋(左)	遠藤(左)
8	及川(右)	及川(右)
9	嶋(三)	嶋(捕)

ベンチ：高橋(牧)、西島、佐々木(久)、篠村、三善



岩手郡医師会チーム

□ 岩手郡医師会ゴルフ同好会の集いに参加して □



成島勝之助先生

玉山村 成 島 勝之助

とき：平成10年9月23日(水)

ところ：岩手町 岩手沼宮内C.C

台風一過、晴天の秋分の日に第9回「岩手郡医師会ゴルフ同好会の集い」は、岩手町沼宮内C.C.南コースにて行われた。日本全国が不況と言うわりにはゴルフ場は大盛況であり、スタートも20分遅れであった。その後も待ち待ちの状態でしたが、かえって前後の組ともコミュニケーションが取れ懇親が深まりました。コースコンディションは極めて良好で6インチルールで行うにはもったいない状態であり、また長雨の影響でグリーンはとても止まり易く皆バックスピンがかかる状態で

した。今回は工藤巖さん（故人・元岩手県知事）の告別式などが重なったため医師の参加は7名と少なめでしたが、久々の好天候のもと存分にゴルフを堪能しました。成績は、坂井博毅先生がメンバーならではのプレーで、37/40、計77のベストグロスでしたが、ハンディキャップに恵まれ、私成島が44/41、ハンディキャップ13.2ネット71.8で前回に引き続き優勝させて頂きました。次回はより大勢の参加者となる事を期待したいと思います。



岩手郡医師会ゴルフ同好会の集い参加者

<成績>

〔医師の部〕

順位	氏 名	南○	南Ⅰ	グロス	ハンド	ネット
1	成島勝之助	44	41	85	13.2	71.8
2	坂井 博毅	37	40	77	3.6	73.4
3	三善 悟	48	46	94	18.0	76.0
4	吉田 雅美	50	51	101	24.0	77.0
5	佐藤 郁郎	54	57	111	30.0	81.0
6	嶋 信	50	47	97	15.6	81.4
7	細井 信夫	49	51	100	15.6	84.4

BG：坂井 (37.40/77)

NP：鈴木、三善、広渡、坂井

DC：嶋、相川、後藤、吉田

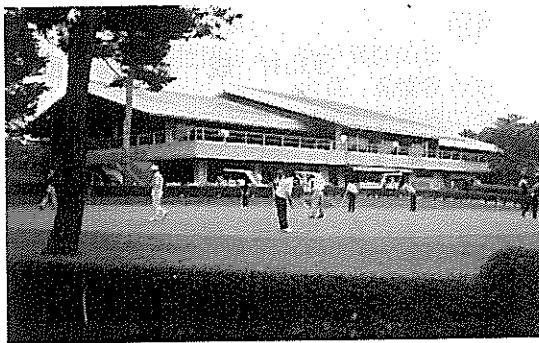
〔メーカーの部〕

順位	氏 名	南○	南Ⅰ	グロス	ハンド	ネット
1	相川 謙一	46	47	93	20.4	72.6
2	後藤 康太	47	43	90	15.6	74.4
3	大場 永代	42	42	84	8.4	75.6
4	村上 優	50	49	99	21.6	77.4
5	鈴木 大	51	52	103	25.2	77.8
6	広渡 隆	57	48	105	26.4	78.6
7	井上 真宏	50	48	98	19.2	78.8
8	中村由紀夫	54	52	106	26.4	79.6
9	永山 康秀	55	54	109	26.4	82.6
10	藤石 茂夫	55	62	117	25.2	91.8

第32回県医師会親睦ゴルフ大会

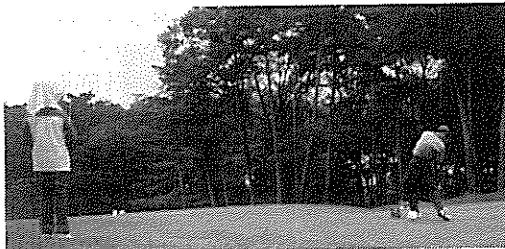
とき：平成10年9月27日(日)

ところ：金ヶ崎町 栗駒ゴルフ俱楽部



第32回県医師会親睦ゴルフ大会
会場となつた金ヶ崎町栗駒ゴルフ俱楽部

例年の暑い夏が来ないうちに秋になってしまい、今年は台風の影響で各地に水害をもたらしてしまったが、9月27日(日)うす曇りの天候の中、第32回県医師会親睦ゴルフ大会が、東磐井郡、気仙医師会の担当で、金ヶ崎町栗駒ゴルフ俱楽部（以下G.Cと記す）において開催された。



栗駒ゴルフ俱楽部西コース一番
(ティーショットは土谷正彦先生)

今大会岩手郡からのエントリーは12名であったが、欠席者も多く、期待の先生方のスコアも伸びず都市医師会対抗団体戦でも下位を低迷することとなってしまった。

また年齢により70才以上はグランドシニア組、60~69才まではシニア組、50~59才までは壮年組、49才以下は青年組、それとレディース組と別けられて個人賞あり、このうちグランドシニア組、レディース組には今回岩手郡からの参加者はなかった。また団体戦は、各都市医師会の上位5名の合計ネットにより争われ、参加者の少ない都市医師会は合併して一医師会として扱われた。

その結果、各組で上位入賞者の多かった江刺市、遠野市、紫波郡医師会の合同チームが

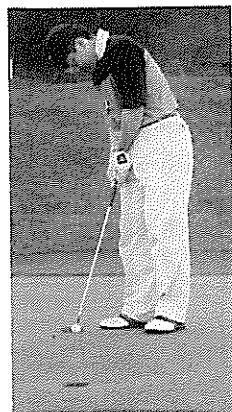
団体優勝となりメダルが授与された。

この栗駒G.Cは、東、西、南と3コースがあり、それぞれが松林でセパレートされている所も多く、左や右の林の近くに打ち込むと次の一打が樹木に当たってよからぬ方向に飛んでしまってO.Bになったりと各ホールとも距離も比較的たっぷりあり、前日來の雨の影響でグランドもカジアルウォーター状態（水浸し）で、他ヘドロップして打たなければならぬ所も多々あった。県内のゴルフコースではアマチュアの各種大会で使用される立派なコースでもあり、各先生方苦戦の連続であった。

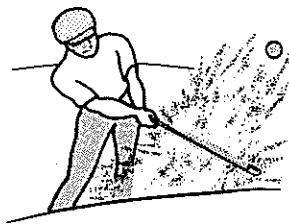
この大会は、クリニックマガジン社主催の全国医師ゴルフ大会（於箱根町）出場選手の選定も兼ねているため、予めこの大会参加希望の先生方は（今回は16名参加登録）朝の早いスタートで、バックティからノータッチプレーとして行われ、上位2名が推薦されることになっている。

今回この代表に岩手郡の成島勝之助先生（玉山村好摩開業、スコアは40、42グロス82）が選ばれ、11月4日箱根町での全国大会に参加することになった。昨年の土谷正彦先生に統いて2年連続県代表が岩手郡より選ばれ、もう一人の代表には、紫波郡の徳永三郎先生（スコアは41、38グロス79）が選ばれた。

この二人は同じ整形外科の先輩、後輩であり、また平成6年の同じ栗駒G.Cの本大会で、グロスで同点となり、プレーオフを行って、一番ホールで徳永先生が勝利し、箱根行きを決められた仲もある。チームワークもばっちりで、全国大会での上位入賞が期待される。次期開催地は水沢医師会と江刺市医師



会の担当で、今回と同じ栗駒G.Cで、平成11年9月26日(日)を予定しているとの担当医師会からの報告があった。
(M.S記)



<岩手郡参加者成績>

◇青年組 (49才以下)

		東	南	西	クロス	ハサウエイ	ネット
第6位	土谷 正彦	46		44	90	16.8	73.2
第9位	成島勝之助	42		40	82	8.4	73.6
第29位	吉田 雅美	63		51	114	26.4	87.6

◇壮年組 (50才~59才以下)

第23位	柄内 秀彦	51	49		100	21.6	78.4
第28位	嶋 信		52	52	104	18.0	86.0

◇シニア組 (60才~69才以下)

第8位	細井 信夫	51	50	101	25.2	75.8
-----	-------	----	----	-----	------	------

岩手郡医師会主催

救急医療懇談会

日時：平成10年10月15日(木)午後5時

場所：ホテルメトロポリタン盛岡 NEW WING

- 1 開会の辞 副会長 高橋 孝先生
- 2 会長挨拶 高橋牧之介先生
- 3 協議
 - 1) 「災害時の救急医療に関する協定書」の一部変更する件
 - 2) 「岩手郡医師会災害時救急医療対策要綱」について
- 4 特別講演

演題「救急医療体制について」
岩手医大高次救急センター助教授
遠藤 重厚先生
- 5 シンポジウム

座長 岩手郡医師会会長 高橋牧之介先生
「21世紀の災害・救急医療体制の在り方」
司会・進行
- 6 閉会の辞 西島 康之先生

表記救急医療懇談会は、ホテルメトロポリタン盛岡NEW WINGにおいて、郡内8ヶ町村の総務課長及び福祉課長を含め14名と岩手郡の会長以下役員17名を集めて開かれた。

例年救急週間（9月9日前後）に併せて開催されていたが、各町村とも日程がとれないため今日に及んだもので、今回は「救急医療体制について」と題して、岩手医大高次救急センターの遠藤重厚先生の講演を拝聴したあと、「21世紀の災害・救急医療体制の在り方」と題して、岩手医大高次救急センターの谷口繁先生の司会により各町村の担当者及び郡医師会の救急搬送を依頼する側の意見と受け入れる側の高次救急センターの対応について活発な意見交換が行われた。

◇協議

1) 災害時の医療救護に関する協定書の一部を変更する協定書

8ヶ町村（以下「甲」という）と社団法人岩手郡医師会（以下「乙」という）とで取り交わした「災害時の医療救護に関する協定書」（平成元年4月1日締結）の一部を次の通り変更する。

(医療救護班の派遣)

- 2 条 甲は、地域防災計画に基づき、必要に応じて、乙に医療救急班の派遣を要請するものとする。
- 2 乙は、前項の要請を受けたときは、岩手郡医師会災害事故救急医療対策要綱に基づき、医療救護班を甲の指定場所に派遣するものとする。

(自主出動)

2条の2 乙は、甲と連絡がとれないとき又は派遣の要請を待ついとまがないときは、自主的に災害地の情報収集を行い、その結果、救急に医療班を派遣する必要があると認めた場合は、自主的に医療班を編成して、派遣することができる。

- 2 乙は、前項の規定により医療班を派遣したときは、遅滞なく甲に報告するものとする。
- 3 乙が前項の規定により医療班を派遣した後において、甲が前条に基づき医療班の派遣が必要と認めたときは、乙が派遣したときに要請があったものとみなす。

この規定締結の証として本書2通を作成し、甲、乙記名押印のうえ、それぞれの一通を保存するものとする。

平成10年10月15日

甲 町村長

乙 社団法人 岩手郡医師会

会長 高橋牧之介

2) 岩手郡医師会災害時救急医療対策要綱について（省略）

◇特別講演

「救急医療体制について」

岩手医大高次救急センター助教授
遠藤重厚先生

先生は平成7年1月に発生した阪神・淡路大震災のとき、岩手県から派遣された医療救援班の一員として参加し、実際に神戸市内、兵庫県内を巡回された模様を話された。

<主な要旨>

災害時の医療期は大きく次のように分けられる。

- ① 救護期 (発災～48時間)
- ② 救急医療期 (発災～72時間)
- ③ 感染症期 (3日～2週)
- ④ P H C期 (1週～1ヶ月)
(Primary Health Care)
- ⑤ 精神的援助期 (1ヶ月～1年)

災害が発生したら、まず、生存者を見つけて、救助する。これがSearch and Rescueと呼ばれている。さらに、医療支援として、救出中の生体維持と救出直後の救命医療体制、この連携がSearch, Rescue, and Medical Support, SRMと呼ばれ、災害時の患者の救出には、このSRM-Teamの必要であることが、今回の大震災において強く指摘されている。

大災害時の救急医療期に、まず行うことは、triage, treatment, transportationの三つのt,すなわち3Tsであると言われている。

災害時の医療の原点には、常に子供(children)、女性(woman)、老人(aged)、患者(patient)のCWAPを優先して救助するという理念賀鳴ければならないといわれている。

厚生省の「阪神・淡路大震災を契機とした災害医療体制のあり方に関する研究会」が平成7年5月29日に震災時における医療対策に関する緊急提言を行っているが、その発送の根底には、地域単位の対応(community based)、住民主体の活動(citizen's action)、日常からの訓練・備え(continuous effort)があると考えられる。

また、「普段の危機意識なくして、危機管

理はできない」ということを強く銘記すべきである。と強調された。

◇シンポジウム

「21世紀の災害・救急医療体制の在り方」

岩手医大高次救急センター教授

谷口 繁先生

<わが国の救急医療体制の変遷>

(1) 救急告示制度

昭和39年に創設されたいわゆる救急告示制度は、救急隊によって患者を受け入れる医療機関の確保という観点から整備された。

(2) 初期・二次・三次救急医療体制

昭和52年から開始された初期・二次・三次救急医療体制は、当初は救急告示制度を補完する性格であったが、後には地域における救急医療体制を整備することを目的として制度とされてきている。

(3) 救急救命士制度

平成3年、救急現場および搬送途上における応急処置(プレホスピタルケア)の充実による救命率向上のため救急救命士制度が創設され、その普及・定着を図るとともに、救急救命士の資質向上策も講じられてきた。その結果、ようやくわが国の救急医療体制も先進国に一步近づいた。

(4) 分かりやすく、災害に強い救急医療体制

わが国の救急医療体制の量的な整備はほぼ達成しつつある一方、質的な充実と地域格差の是正が求められてきた。これを受けて、平成9年厚生省健康政策局救急医療基本問題検討会は、現在の救急医療体制を見直し、救急告示制度と初期・二次・三次救急医療体制の両制度が共存するための住民や救急隊にとって利用しづらいものとなっていることを指摘し、救急告示制度を解消し制度の一元化を図る必要があると報告した。また、阪神・淡路大震災の体験を教訓として、平時から大災害を想定した救急医療体制の構築が必要となった。

上記の内容を解説されたあと、日頃救急患者を高次救急センターに依頼することの多い郡内の先生方と受け入れ側との意見交換があり、1時間以上かかる一番遠方の葛巻町からの救急搬送についても冬場の道路事情もあって、どうしても緊急を要する場合はヘリコプターによる搬送も考慮してもいいのではないか、などという意見もあった。

(M. S記)

第29回全国学校保健・学校医大会に参加して

岩手郡医師会理事 上原充郎

平成10年11月7日(土)広瀬川の岸辺、青葉城向かいの仙台国際センターにおいて、宮城県医師会担当で表記大会が全国から約700名の参加で実施された。岩手県からは11名参加し、小川英治先生が「岩手県の児童生徒の血糖値」、村井盛子先生が「小児の難聴と言語の発達」を発表された。又、小原啓吾先生が心臓、腎臓検診や脊柱側弯の手引書の作成、岩手県学校保健、学校医大会企画立案等の長年の学校保健に対する功績に対し表彰を受けた。

午前は(1)からだ、(2)からだとこころ、(3)耳鼻咽喉科、(4)眼科の4分科会に別れて実施された。私は午後のシンポジウム「新しい学校保健システムの構築について」から参加した。シンポジウムは高下泰三先生(日本医師会学校保健委員会委員)が「認定学校医制度」について、坂井武昭先生(宮城県医師会理事)が「スクールカウンセラーと学校協力医体制」について、北澤潤先生(文部省体育局学校保健教育課専門員)が「新しい学校健康教育と

学校医のあり方」について、それぞれ講演された。(御希望の方には講演レジメがありますので私に申し付けてください。) 座長は宮城県医師会副会長師研也先生、コメンテーターとして日本医師会常任理事、竹内輝博先生ですすめられ、フロアから三名の発言があり約1時間討議された。

特別講演は東海林恒英講師(仙台市歴史文化事業団理事長)により「伊達政宗と慶長遣欧使節」と題して慶長18年から元和6年の8年間にわたり支倉常長がサン・ファン・バウティスタ号でローマ、スペイン、フランスへ使節団を遣わしたいきさつを史実を元に明確に解説された。さらにアトラクションとして宮城県立大河原商業高等学校ギター部(全日本ギターコンクール合奏部門で最優秀賞12回受賞)の素晴らしい演奏で大会は終了し、会場を懇親会場へ移して懇親を深めて全てを終了した。

平成10年度学校保健連絡会議

岩手郡医師会理事 上原充郎

平成10年11月11日

盛岡会場

【報告】

平成10年11月11日、岩手県予防医学協会において県予防医学協会と県内小中学校で尿、虫卵、心臓、貧血、脊柱側弯、学童成人病等の検診を実施してもらっている学校との平成10年度の連絡会議が行われました。

参加者約150名で、教育委員会、養護教諭、協会関係者でした。

午前は10年度実施、検診結果や来年度へ向けての方針、変更等が話し合われ、午後は講演でした。当日の次第を報告します。

午前の部 9:50~12:00

挨拶 専務理事 小山田 恵

I. 平成9年度学校保健事業実施状況

1)尿検査 2)寄生虫卵検査 3)心臓検診

4)貧血検査 5)脊柱側弯検診

6)学童成人病予防健診

II. 小児生活習慣病予防健診実施方法の変更

III. 検査結果蓄積と今後の対応

IV. 事後指導の実際－意見交換－

V. 質疑応答

1)昨年のアンケート結果にお答えする

2)事前質問の回答

VI. 学童検診における問題点

専務理事 小山田 恵

～～～～～昼 食 12:00～13:00 ～～～～～

午後の部 13:00～15:00

講演 「養護教諭に望まれていること」

講師 岩手県立盛岡北高等学校養護教諭

松野智子先生

隨想

名も無い地震

零石町 高 橋 孝

平成10年9月3日16時58分、ゴーと言う音と共にボロ診療所がグラグラ揺れた。私は医師会の役員会に出席するために着替えて二階の自分の部屋に居ったが、泉先生の100号の絵がぶらん、ぶらん揺れている。「オーフ火を消せ!」と大きな声で下に叫んだが誰も居らない様子、皆驚いて外に出ていた。外に出ると危険だと言う説もあるが、老朽化した建物だから強い地震がくると倒壊することについては自信を持って言えるので、「ナーンダ外に居たのか」とだけ言った。消毒器は勿論、ストーブなど全て耐震装置がついているし、診療室内には裸の火が無いので一応は安心である。自分の家屋に行ったら家内が息子の棟に行って青くなっている。30年も経った自分達の家屋より新しい子供の棟が安全と考えてか夜でも、昼でも地震の度に走る。初めは「何処へ行くの?」と聞いたこともあったが今は黙っている。家内は地震より怖いのは此の世の中に居ない位の怖がりかたである。次男が医大、小児科に入院して居たときのことだが、付き添いをしていて、故根本助教授の所謂大名行列回診の時、十勝沖地震があった、家内が子供を置いて逃げ出して、先生に「ホラ、ホラ子供を置いてきぼりにしないで!落ち着いて下さい」と窘められたことであった。雷も、火事、父親も怖くないようである。勿論今は怖いのは子供、地震、火事……ナソうだが。阪神大震災の時も連休で神戸に趣味の練成会があり一泊し、運よく帰って、次の朝震災のニュースを知った。岩手山の噴火、地震のニュースは零石町にとって経済的に大きな打撃となっている。民宿、ペンション、旅館と客が途絶え、或はキャンセルと困っている様である。

旅館では震度によって割引をして宿泊をさせるキャンペーンを行っている所があり、先刻の震度6の時は6割で宿泊させるのかと他事ながら心配したが、そのままその旅館に宿泊することが出来ず、お客様を鷲宿温泉に移

したのでもっと、もっとサービスになったのではないかと案じている。ニュースが正確につたわらず、小岩井に火山灰が降ったり、鷲宿温泉に噴石が飛んだりのデマが飛び交っているようだ。噴火も無し、地震も無しと一生懸命宣伝しているが、10月19日のNHKの「クローズアップ現代」では岩手山ほど観測機器の設置された山も無いようだ。加えて建設省は赤外線カメラも設置した。テレビの解説では小規模でも爆発はある様な全国放送で観光客の足を引っ張るのではと心配している。北海道の駒ヶ岳の様に被害の無い小さい水蒸気爆発でもあって、観光の足しにでもなってくれればと願っている。零石の地震は名も無い地震で、いくら震度6でも公の名前が付いていないそうである。名前が無くて結構なことだが、気象庁の地震、火山課によると国の基準(?)の被害が無いと公の名前が付かないそうである。名前の有るのは例えば十勝沖地震とか兵庫県南部地震などで、公の名前の無いのは宮城県沖地震とか零石の岩手山南西部地震又岩手県内陸北部地震とか、名のある地震も地名の様だが、名も無い地震は便宜上地名で呼ばれている。そうである。岩手山の火山爆発予報、加えて地震と経済的被害は大きいが、人的被害が大きかったり等で公の名前が付く様なので、名前など付かなくていい岩手山もナマズも静かに眠ってくれることを願っている。



写真は側溝の水路の壁の線でも分かる地震による断層(零石町内)

岩手郡医師会役員会

日 時 平成10年9月3日(木)6:00

場 所 盛岡市大通り 梓

- 医療施設経営改善研修会開催について（9月4日）
- 盛岡地域災害医療対策連絡会議の開催について（9月25日）
- 在宅当番制事業等に係わる補助金の削減について
- 災害時の医療救護に関する協定書の一部を変更する協定書
- 平成10年度高齢者サービス体制整備支援事業に伴う介護認定審査委員の推薦依頼について
- 介護保険制度に関する「かかりつけ医」について

- 平成10年度救急医療週間における実施行事について
- 保健医療功労者に対する知事表彰について
- 日本医師会年金制度普及推進運動について
- 医療情報システムについて
- 在宅医療に伴う家庭から排出される医療廃棄物の適正処理について
- 岩手医学会秋期大会について
- 岩手郡医師会臨時総会について
- 入退会会員
- その他

◎訂正とお詫び

平成10年7月発行の岩手郡医報（No60）に次のような誤りがありましたので訂正してお詫びいたします。

- 10頁 岩手県社会保健診療報酬支払基金 → 岩手県社会保険診療報酬支払基金
- 12頁 写真説明の東大阪市・小坂産病院 → 小阪産病院
- 16頁 編集後記の記事、右下から8行目、成島勝之先生 → 成島勝之助先生

編集 後記

- 岩手山の初冠雪（10月20日）の便りとともに、八幡平頂上付近では約10日遅い10月中旬の降雪により遠方から来た紅葉見物の観光客の寒々とした光景をTVは撮していました。冬の到来も間近との印象が強いこの頃です。
- 岩手県医師会親睦野球大会は昨年の千厩町に統いて一関市医師会の担当で市内8ヶ所の会場で開催された。

試合の模様は今年も監督を務めた三善悟先生に観戦記として書いていただきどうもありがとうございます。斎美済いつくし園での懇親会では担当医師会心づくしの料理の数々が並べられ、試合後一風呂浴びたあととの空腹を満たすに十分であった。中でも地元花泉町を中心とした県南名物の「モチ」の数々は大変好評であった。

- 9月27日に行われた県医師会親睦ゴルフ大会は、雨天が続いたあとのくもり空のもと栗駒G.Cにおいて行われ、岩手郡より参加された選手の中で成島勝之助先生が日頃の練習の成果を発揮され、岩手県代表の栄誉が与えられた。昨年の土谷正彦先生に続

いて2年連続岩手郡より代表が選ばれた。全国の医師ゴルフ大会（11月4日箱根町）は強豪が沢山参加される中、普段の力を遺憾なく発揮され頑張って下さい。

○郡医師会のゴルフ大会でも絶好調の成島先生が春に統いての優勝でした。この大会の印象など寄稿していただきありがとうございます。

○9月3日午後4時58分に起きた震度6弱の地震による被害は、平石町を中心として旅館、ペンション、民宿、ホテルなどには宿泊客のキャンセルが相つぎ、その他岩手高原スキー場の今シーズンの営業中止にまで影響が出ているようだ。依然として岩手山の火山性微動とか有感地震など毎日のようにTV、ラジオ、新聞等で報道され、岩手山周辺に住む岩手郡の住民にとってはまだまだ油断の許さない状況といえよう。

今回被害の多かった地元平石町の高橋孝先生が隨想の中で触れていてますのでぜひ一読を！毎回の寄稿ありがとうございます。

(M.S記)